

自立援助ホーム 三愛子ひつじ寮通信

～NO. 1よりONLY ONE 君らしく輝け！～

第4号 2021年1月10日

〒366-0829

埼玉県深谷市西大沼 325-2

TEL : 048-594-6406

FAX : 048-594-6416

MAIL : kohitsuji@galaxy.ocn.ne.jp

「継続は難なり」と「私はここにいる、見て！」

ホーム長 浅野 瞳

新年明けましておめでとうございます。無事に新しい年を迎えることが出来ましたこと、開所よりご支援ご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

私自身も、住み込みホーム長として、新たな環境でのスタートでしたが、嬉しいことも、苦しいことも、子どもたちと生活を共にしてきたこの9か月は、かけがえのない時間となりました。

子ひつじ寮には、就労している子、就学している子と様々いますが、情緒面に不安を抱えている場合が多いです。定期的に子どもたちと面談の機会を設けていますが、「頑張る！」と決めた翌日には、気持ちが変わってしまう。頑張りたいのに頑張れない。やらないといけないこともわかっているけど、気持ちがついていかない。そんな自分のうまくいかない現状に、自信を失ったり自暴自棄になったりする。「継続は難なり」と子どもたちも口をそろえます。成功体験を積み重ねられないしんどさは周囲が思っている以上に本人にとって苦しいものでしょう。子どもたちの勤務先や通学先には非常にお世話になり、結果的にリタイアという形になっても、温かく声を掛けていただけることがどれほどありがたいことであるのか、いつか子どもたちも気付いてくれると信じたいと思います。

関係性の作り方や、距離感の取り方が苦手な子については、自分の思いをうまく言葉にできず、「自分はここにいる、見て！」を不適切な形で行動化させ表現します。職員がどこまで自分を受け入れてくれるのか、表面上は良いことを言ってもどうせ見捨てるのではないかと、疑い、攻撃し、反発し、不貞腐れてみたりを繰り返します。時には、警察の介入が必要になるほど行動がエスカレートしてしまうこともあります、うまく思いを伝えられない子どもたちのもどかしさを感じます。

年齢が上がっても、基本的な安心感が確立していないと、自分の中の負の感情をコントロールできません。だから職員にくつづいて、安心感を得ようとしたり、自分の中の不安を解消しようとします。ですが、「周りの人がみんな敵に思えていた」時代から、様々な支援者が彼らに愛情を注ぐことで、少しずつ「自分の思いは受け取ってもらえるのではないか」と思えるようになり今の彼らがいます。子ひつじ寮でも今までの支援者の想いをつなぎながら、次の支援先へとつなげていくことができればよいと思っています。

12月17日、4月から入所していた男子1名が退寮しました。子ひつじ寮として初めての退寮生です。自分で仕事を見つけ、新たな出発ができたこと、これからも陰ながら応援していきたいと思います。

地域の方には、ホーム運営に対し、様々ご迷惑と、ご心配をおかけしております。コロナ禍の中で、地域の方とのコミュニケーションも難しい状況でしたが、掃除ボランティアには子どもたちと一緒に参加してきました。これからも子ひつじ寮を理解して頂けるよう、地域貢献に力を注いで参ります。

今後も、様々なことがあると思いますが、「継続は力なり」と信じ、「あなたを見るよ」と粘り強く関わり続けていきたいと思います。本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

利用者たちの今

～令和3年 新年の抱負～

見知らぬ土地での生活、初めて共に暮らす人たちとの出会い、学校や職場での未知の体験。
新しい事づくめの1年が過ぎ、今年はどんな自分になりたいですか？

自分ときちんと向き合って
自分らしい一步を日々
歩んでいきたい
(Hさん・18歳)

自分は極普通の人間になりたい
と思います。その為に、普通に
なるドリヨクをしたいと思いま
す。(T君・16歳)

来年の4月から新しい学校に行く
ので、早寝早起きして学校に毎日
ちゃんと行けるように頑張りたい
です。将来の夢はネイリストにな
ることです。(Mさん・16歳)

外で体を動かす仕事を見つ
けるぞ。(Aさん・17歳)



今年は受験生になるので、第1志
望の学校に合格できるよう日々努
力していきます。(Mさん・高3)

第4回



子ひつじ寮 クリスマスパーティー開催！

12月23日(土)、夕食を兼ねてクリスマスパーティーを開催しました。夕食のメニューは、お稲荷さん、ミニ海鮮丼、ポットパイ、キッシュ、フライドチキン、フライドポテト、サラダ、クリスマスケーキを揃えました。調理や部屋の飾りつけを手伝ってくれた利用者もいて、楽しい夜のひとときになりました。



スタッフルーム

今年のわたし

新たな年を迎え、今年はどんな自分になりたいですか？
新年の抱負を込めて、胸に刻んでおきたいことばを聞きました。

「どんなに立派な船も、無数の方向転換を繰り返しながら進んでいく。蛇行しているよ
うに見えても、ある程度の距離から眺めれば、実は一つの方向に向かってまっすぐ進んでい
る」エマソンが語った言葉ですが、一つ一つの些細なことに感情を囚われることなく、自分を
信頼し、他者を尊重し、未来を信じ、一日一日を大切に
送っていきたいと思います。
(高橋 健一郎)

令和3年の抱負 「今年のわたし」は「強い自分に
なりたい」と思います。人を受け入れられる余裕と、仕事
でも乗り越えらえる強さを身に着けることが理想です。

(小澤 京子)
絵:Aさん



with コロナ②

コロナ禍で外出や人との接触が制限
される中、スマホやPCを使った新し
いライフスタイルも誕生しました。リモ
ート会議、リモート飲み会、オンライン
授業、リモート参拝、リモート成人
式、オンライン診療、オンライン修学
旅行なるものもあるとか。これから
の時代は、新しい働き方、学び方、遊
び方のアイデアが期待できます。とはい
え健康第一。手洗い、消毒、マスク、3密
を避けた生活を心がけ、医療従事者の方々に負担をかけない
よう自己管理が大切ですね。

■ご支援・ご寄付のお願い■

子どもたちの生活に必要な物品や食料品のご支援をお待ちしております。米、パン、調味料、お菓子、ジュースなどの食料品や、洗剤、トイレットペーパーなどの日用品は大歓迎です。ご寄付をお考えの方はお電話かメールでご相談ください。

編集 後記

「叱らない、褒めない、子どもの気持ちに共感して困難を乗り越えよう」心理学者アドラーの考える子育ての目
標は「自立」、つまり自分で考えて社会と調和できることです。叱る・褒めるという行為は、上の者が自分の思い
通りにするために下の者に行うことです。人間はすべて平等で、子どもも大人も同等の価値があるという考えに
基づけば、失敗したら叱らずに共感し、いい事をしたら感謝する。たくさん叱って子育ててしまった母です
が、子ひつじの子ども達には、たくさん話を聴いてくれる人と思ってもらえるようになりたいです。(佐藤透子)